

## 令和2年度 富山県立氷見高等学校学校経営計画

### 1 学校教育目標

- ・ 知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる。
- ・ 自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる。
- ・ 健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる。

### 2 学校の特徴

- ・ 5学科各学年6クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現の達成をめざした教育活動を推進しています。
- ・ 地域との結びつきがきわめて強い氷見市で唯一の高校です。生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動、生徒会活動をはじめ学校生活全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・ 普通科では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学への進学を目指しており、2年次より文理探究コース、理系、文系の類型別授業を編成しています。基礎重視の授業と個別面談をもとに、生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動の充実に取り組んでいます。
- ・ 専門学科は、農業科学科(20名)・海洋科学科(20名)、ビジネス科(40名)、生活福祉科(40名)を3学級で構成しており、基礎学力の向上を重視するとともに、体験的学習や資格取得などを通して、進路実現に向けた知識・技術の習得にも取り組んでいます。
- ・ 全学科をとおして、地域の自然や文化等に係る課題研究学習としての「HIMI学」の履修、進路実現をサポートする「キャリア教育」の推進、学科の枠を越えて将来への広い視野のために科目選択ができる「総合選択制」の実施など、特色ある教育活動を推進しています。

### 3 学校の現状と課題

本校では『文武両道』の校風を大切に、学習と部活動の両立に努めています。部活動では、平成29年度の選抜大会、平成30年度の選手権大会・国民体育大会のすべてにおいて、全国制覇を果たした男子ハンドボール部の活躍をはじめとして、自転車競技部やその他多くの運動部、文化部が輝かしい成果を上げています。一方、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校全体として学習指導及び進路指導体制を明確にし、生徒の学習意欲の向上を図ることが一層求められています。また、生活面においては、生徒の社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

以上のことを踏まえ、本校では、次の3つの観点から学校経営に係る様々な課題に取り組んでいきます。

- (1) 知性の向上（生徒の活動として、基礎・基本の定着と個々の自主的学習態度の育成）  
（教員の活動として、「主体的・対話的で深い学び」への準備と実践）
- (2) 品性の向上（基本的生活習慣の確立と自律意識及び自己有用感の育成）
- (3) 信頼される学校づくり（家庭や地域とのよりよい連携の推進）

4 学校教育計画

| 項目   |  | 目標・方針及び計画 |  |
|------|--|-----------|--|
| 1    | 学習活動   | 目標        | <p>① 生徒の学習意欲を高め、自主的に学習する態度を確立することにより、生徒の学力の向上を図る。</p> <p>② 生徒の実態に応じた学習内容の準備や指導方法を工夫するために、教員の実践的な教科指導力の向上を図る。</p>   |
|      | 重点1①②  | 計画        | <p>① <b>生徒の実態調査や面接等によって家庭学習の実態把握に努めながら、学習意欲を引き出す授業改善や基礎基本を定着する小テスト等の実施によって、自主的な学習習慣の確立を図る。</b></p>   |
|      | 重点1③   |           | <p>② <b>各学科の特色を生かした学習活動を推進し、入学試験に対応できる学力の養成や資格取得による体験的・実践的な学習を重視する。</b></p>  |
| 重点1全 | <p>③ 生徒の実態や学習内容を考慮したシラバスを作成し、「主体的・対話的で深い学び」の実践を行い授業の充実を図る。また令和3年度大学入学者選抜への対応を学校全体で進めていく。具体的には、<b>各教科の研修体制を確立し、互研授業の実施及び教科部会における研修、独自の試作教材の活用などを取り入れることで授業の改善を図り、生徒の主体的な学習の取り組みを支援する。また、ICT教育推進委員会を設け、ICT機器を活用した授業の実践事例を積み重ねつつ、校内外の研修を通して新たな活用方法に関する知見を得て、今後の授業開発に活かす。</b></p> <p>④ <b>氷見市と連携協力に関する包括協定を結んでおり、生徒が市職員や地域おこし協力隊、地域人材、企業および機関等との協働的な取り組みにおいて、地域課題を理解する学習や、それらの課題の解決に向けた探究活動を支援する。また、この取り組みを通して、地域人材を育成するカリキュラム開発と実践を行い、地域創生に主体的に携わる人材の育成を図る。</b></p> |           |  |
| 2    | 学校生活   | 目標        | <p>① 基本的な生活習慣を自主的に身に付けるとともに、社会的責任と役割を自覚して、自律した行動ができる人間に育てる。</p> <p>② 心身の健康保持・増進に関する理解と関心を深め、自己有用感を持って有意義な学校生活を営む態度を育成する。</p> <p>③ 環境への配慮の意識や美化意識の向上を図り実践する態度を養う。</p> |
|      | 重点2①   | 計画        | <p>① <b>県の「さわやか運動」や本校の「氷高さわやかディ」を通じた挨拶の励行や遅刻防止、交通・乗車マナーを守ることや服装を整えることなどの基本的な生活習慣を、校風委員による呼びかけ等、生徒相互のチェック機能を働かせながら、身に付けさせる。</b></p>                                   |
|      | 重点2②   |           | <p>② <b>人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握し、各学年や保健厚生部と連携し、生徒との信頼関係に基づく対応を推進する。</b></p>  |
| 重点2③ | <p>③ 生徒の心身不調の原因を早期に発見し、スクールカウンセラーや巡回指導員等との相談及び各学年や保護者等とも適切に連携を図り対応する。</p> <p>④ <b>分別方法を分かりやすく周知しつつ、年間5回、保健委員を中心にゴミの分別徹底の働きかけを行い、生徒が自ら校内美化活動を行うよう意識付けを行う。</b></p>   |           |  |



5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

| 令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 - |  |  |   |                |              |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
|----------------------------|--|--|---|----------------|--------------|-----|-----|--|------|--|----|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|
| 重点項目                       | 学習活動（向学心および問題解決に向けてIT機器を積極的に利用する態度を育成する）   |  |   |                |              |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 重点課題                       | 授業及び家庭学習へ意欲の醸成   |  |   |                |              |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 現 状                        | <p>本校では、1学期と2学期の期末考査に向けての学習時間調査を全学科の生徒を対象に実施している。過去3年間の結果を下表に示す。昨年度の結果は2年前よりは良いものの、前年と比べるとやや悪い状況であった。今年度もこの調査を実施し、学習時間の実態を把握する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th colspan="2">普通科</th> <th colspan="2">専門学科</th> <th>平均</th> </tr> <tr> <td>2学期末考査<br/>期間学習時間</td> <td>平日2時間<br/>以上(%)</td> <td>休日3時間<br/>以上(%)</td> <td>平日2時間<br/>以上(%)</td> <td>休日3時間<br/>以上(%)</td> <td>平日・休日<br/>(%)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>73</td> <td>73</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>36</td> <td>25</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、今年度の学校重点目標には、昨年来導入されたスクリーンやタブレットを活用したICT教育を推進することが挙げられている。これらの機器を利用した授業を推奨し、生徒がより主体的に参加できる授業を目指したい。また、スマートフォンやタブレット端末、コンピュータを学習やアンケートに利用する試みを生徒、教職員で実施したい。</p> <p>専門学科では、教科の学習に加え、各種検定の取得を重視するような指導を行ってきた。その評価指標として、昨年は農業科学科の検定取得平均8.1種目、海洋科学科の食品技能検定I類および水産海洋技術検定合格率55%、ビジネス科は全商検定1級合格のべ98名、生活福祉科、家庭科技術検定合格者のべ50名であり、前年比との比較は学科によって様々であった。今年度は昨年度の結果を目標として、積極的に検定に挑戦させたい。</p> |  |   |                |              | 学 科 | 普通科 |  | 専門学科 |  | 平均 | 2学期末考査<br>期間学習時間 | 平日2時間<br>以上(%) | 休日3時間<br>以上(%) | 平日2時間<br>以上(%) | 休日3時間<br>以上(%) | 平日・休日<br>(%) | 平成29年度 | 60 | 55 | 16 | 19 | 38 | 平成30年度 | 73 | 73 | 40 | 34 | 55 | 令和元年度 | 68 | 64 | 36 | 25 | 48 |
| 学 科                        | 普通科  |  | 専門学科  |                | 平均           |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 2学期末考査<br>期間学習時間           | 平日2時間<br>以上(%)   | 休日3時間<br>以上(%)                                     | 平日2時間<br>以上(%)  | 休日3時間<br>以上(%) | 平日・休日<br>(%) |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 平成29年度                     | 60   | 55   | 16  | 19             | 38           |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 平成30年度                     | 73   | 73   | 40  | 34             | 55           |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 令和元年度                      | 68   | 64   | 36  | 25             | 48           |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 達成目標                       | ① 定期考査における家庭学習の時間、平日2時間以上、休日3時間以上、普通科70%、専門学科40%以上。  | ② 家庭におけるスマートフォンやコンピュータの学習への利用率向上。1学期末より2学期末を上昇させる。 | ③ 専門学科検定合格状況<br>(農)卒業時に取得検定平均7種目以上<br>(海)食品技能検定第I類、水産海洋技術検定の合格者60%以上<br>(ビ)卒業時、全商検定1級合格100件以上<br>(生)家庭科技術検定1級合格者50名以上   |                |              |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |
| 方 策                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査や面接等で生徒の実態把握に努め、将来の進路目標に対し適切なアドバイスを与えるとともに、学習意欲を向上させる。</li> <li>小テストへの取り組み等日々の学習成果の積み上げを重ね、学習習慣の定着を図る。</li> </ul>  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの機能やクラウドサービスを利用して、タブレットやスマートフォンを用いて回答する形でアンケート調査を実施したり、課題をやりとりしたりすることで学習への利用を推進する。</li> <li>学び合いの機会を適切に計画して、技能を確実に定着させる。</li> </ul> |                |              |     |     |  |      |  |    |                  |                |                |                |                |              |        |    |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |

( 評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった )

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 -

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | 学習活動 (教科実践 教員の活動)  |
| 重点課題 | ICT活用による学習・生活指導力の向上と地域協働による学びの魅力化  |
| 現 状  | <p>【ICT活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休校に伴い、教育クラウドの利用が急速に進められた。本校はG suite for educationをプラットフォームとして、5月中旬からclassroomの運用を始めた。オンラインによる授業やホームルームの実施、家庭学習のサポート等、これまでとは異なるツールによって生徒への指導ができるよう教員のICTリテラシー向上が急務となっている。</li> <li>・昨年度(令和元年度)終盤に、校内には41台のタブレット端末が整備され、普通教室と複数の特別教室等にタブレット用のWi-Fiアンテナが整備された。本校周辺は携帯電話の電波が弱く、学校タブレット以外のWi-Fi環境は未整備である。また、教員の執務用パソコンではG suite for educationへのアクセスができない、といった制約がある。</li> </ul> <p>【地域協働による学びについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域協働による教育推進」は、令和元年度から始まった氷見市の「ひみ教育魅力化協議会」と令和2年3月に締結した「本校と氷見市の包括的連携協定」等に基づき、教員の委員会を組織して研究を開始する。地域との協働は、全学科を対象に総合的な探究の時間がその中心となることから、委員会は「総合的な探究の時間運営推進委員会(氷見市との協働教育推進委員会)」の名称とした。</li> <li>・1学年の「総合的な探究の時間」である未来講座HIMI学は、10年前に当時の先進的な教育プログラムとして導入され、氷見を中心とするフィールドワークを取り入れた少人数講座などを実施してきた。しかし、担当者が氷見市との縁を持っていない場合、積極的なプログラムが用意できない等の課題もある。また、特に普通科において1学年の地域学習によって身につけた力を、上級学年で伸ばし、新学習指導要領で求められる課題解決型の学びとするには、組織としての工夫が必要となっている。</li> </ul> |
| 達成目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>① すべての授業担当者が、主体的に教育クラウドを利用し、オンライン授業やWebテスト等による指導ができる。</li> <li>② 通常授業で「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、ICTを活用する方法を、教員が研究し実践する。(研究・実践した教員割合7割以上)</li> <li>③ 「地域との協働による教育推進」として、HIMI学での外部講師・支援員との連携活動をのべ180回(12講座各15回)実施する。</li> <li>④ 「地域との協働による教育」を、特に普通科2学年以降の主体的な課題研究型学習に発展させる方策を組織的に構築する。このために「総合的な探究の時間運営推進委員会(氷見市との協働教育推進委員会)」を、小委員会を含め5回程度開催する。</li> </ol>   |
| 方 策  | <ol style="list-style-type: none"> <li>①教員の教育クラウド利用研修会を実施する。臨時休校、段階的登校時にオンラインでの授業を実施する。</li> <li>②互研授業週間にICTを活用した研究授業を計画し、研究授業の参観によってすべての教員間で授業展開の研究を進める。</li> <li>③氷見市地域振興課を窓口として、普通科HIMI学6講座には氷見市からHIMI学支援員(氷見市職員)、専門学科HIMI学6講座および地域学習全体には6月以降校内に在中する地域学習支援員(氷見市地域おこし協力隊)等の外部人材との連携を密にする。</li> <li>④「総合的な探究の時間運営推進委員会(氷見市との協働教育推進委員会)」の小委員会をプロジェクトチームとして、普通科2学年以降の「総合的な探究の時間」の指導計画をまとめ、趣旨等共通理解のもと次年度本格的に進められるよう準備する。</li> </ol>  |

( 評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった )

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

|      |   |  |   |
|------|---|--|---|
| 重点項目 | 学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）  |  |   |
| 重点課題 | 「誇りに思える氷見高校社会」「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観の育成  |  |   |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶の価値を心から意識して行う生徒はまだ少ない。また、制服の着こなしやJR等公共交通機関の乗降時や車内におけるマナーに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。「誇りに思える氷見高校社会」を創造することで、自己有用感を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。</li> <li>・人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。「安心して過ごせる氷見高校社会」を生徒と一体となって創造するという視点で、向上に邁進する学校生活を安心して送ることができるようにする必要がある。</li> <li>・ペットボトル、空き缶、空き瓶と、可燃ゴミの分別が徹底していない。また、飲み残しがあるまま容器が出されていることもある。分別のルールを守り、その大切さを理解させ、分別が徹底されるように生徒一人ひとりの意識を高める必要がある。</li> </ul> |  |   |
| 達成目標 | ① 挨拶・服装・交通マナー・乗車マナー等の規範意識の向上<br>生徒意識調査における挨拶や服装等に係る意識率<br>95%以上   | ② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上<br>生徒意識調査における「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する意識率<br>100% | ③ ゴミの分別徹底の意識率の向上<br>生徒意識調査におけるゴミの分別に係る意識率<br>95%以上  |
| 方 策  | ① 「誇りに思える氷見高校社会」をキーワードに、県下一斉による年1回の「さわやか運動」、本校独自による各学期初めの「さわやかウィーク」や年6回の「さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、校風委員会及び交通委員会等の委員会活動として取り組ませることで、生徒の主体性に基づき、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「JR等公共交通機関の乗車および乗降時のマナー」など社会的マナーの向上に努める。<br>② 「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。具体的には、生徒集会等で「命の尊重」を訴えるとともに、学期ごとを基本にアンケートを実施することで、人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握する。さらに、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する体制を構築する。  |  | ③ 年間5回のクリーンアップディでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。<br>定期的に保健委員会が教室内のゴミの分別を全校生徒に呼びかける。<br>分別方法をわかりやすく図示したフローチャート（掲示物）を作成し、各クラスに掲示して知らせる。<br>分別の悪い場所（体育館、各職員室、部活動）に対して、ゴミ箱の工夫や担当の先生方への説明など、具体的に個別の対策を立てる。 |

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった ）

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

|      |  |                                  |
|------|--|----------------------------------|
| 重点項目 | 進路支援（進路支援力の向上）   |                                  |
| 重点課題 | 進路目標の早期設定と進路意識向上への方策の推進  |                                  |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の能力や適性を掴みきれていないこと、職業や上級学校についての理解不足、進路決定の方策（入学試験、就職試験など）に対する基礎的、基本的な知識の不足のため、進路意識が高まらない実態が各学年で見受けられる。</li> <li>・全学年で進路意識及び学習意欲を高めて、計画的に受験準備に当たらせるために、「進路学習」と「面接」の充実が必要である。また、保護者への進路情報の啓蒙にも力点を置く必要がある。</li> <li>・進路をより幅広い選択肢の中から選択できる可能性を持たせるために、基本的学習習慣の確立に向けて、進路指導部と各学年、各教科、各部との連携をより密にする必要がある。</li> <li>・大学入学共通テストなどの進路情報を共有できるよう、より系統的で効率的な進路指導の仕組みが求められる。また、これまで蓄積した進路指導のノウハウを蓄積できる体制の充実を図る必要がある。</li> </ul>   |                                  |
| 達成目標 | ① 1, 2年進路ホームルーム（年3回）、各学年保護者会（進路情報）の充実  | ② 進路関連行事「個人面接」「進路講話」「卒業生に聞く」等の充実 |
|      | ・生徒全体の進路ホームルームに対する満足度、及び学年保護者会での進路情報に対する満足度80%以上   | ・生徒全体の個人面接の満足度70%以上              |
|      | ③ 進路希望の実現（第3学年 進学希望者）  | ④ 進路希望の実現（第3学年 就職希望者）            |
|      | ・3年9月進路希望調査（校種）に対し<br>普通科 : 第一志望達成率 50%<br>専門学科: 第一志望達成率 75%   | ・就職希望者の就職内定率 100%                |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的にキャリア学習の機会を設けるなど、各学年に応じた計画的な進路指導を行うことで、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。</li> <li>・進路に関するホームルームの指導内容や指導法について精選・検討し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学年全体での指導体制の共有化を図る。進路統一ホームルームを年3回程度実施し、個人面接にも活用できるように工夫する。</li> <li>・進路に関する行事の内容を吟味し、現行の取り組みに対して改善点を活かすように進路行事を企画する。</li> <li>・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。<br/>1年次・・・「進路講話」「職業人から学ぶ」「文理選択」「進路ガイダンス」「卒業生と語る会」他<br/>2年次・・・「大学等見学」「修学旅行（班別研修）」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他<br/>3年次・・・「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他</li> <li>・必要な進路情報について校内ネットワークを利用して教員間で共有し、生徒に還元できるようにする。また、受験情報や指導方法等についても定期的に情報交換に努める。</li> <li>・生徒自身が進路に関する個人記録を蓄積し、自分の進路経歴を理解することで、進路決定に活用できるように指導する。</li> </ul> |                                  |

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった）

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

|      |  |                             |                      |
|------|--|-----------------------------|----------------------|
| 重点項目 | 特別活動   |                             |                      |
| 重点課題 | 学校行事・部活動及び各主体による地域連携活動のさらなる活性化   |                             |                      |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事は、前年度の課題を参考にし、改善案も取り入れて生徒会執行部を中心に企画・運営を行っている。臨時休校中の行事の削減、延期が求められる中で全校生徒の参加意識や達成感を高められるよう、生徒の意見を取り入れながら、生徒主体の行事にする必要がある。</li> <li>部活動は、全校生徒の約90%が加入している。休校に伴う部活動中止、休養日週2日制の中、限られた時間を有効活用するために、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫と3年生が前向きになれるような支援が求められる。</li> <li>ボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる。校内ではエコキャップやコンタクトレンズの空ケースの回収を行っている。</li> </ul> |                             |                      |
| 達成目標 | ① 各学校行事の精選と内容の充実   | ② 有意義、活躍する場として部活動に参加し満足感を得る | ③ ボランティア活動への参加意識の高揚  |
|      | 各行事に対する生徒の満足度 80%以上  | 3学年生徒の満足度 80%以上             | ボランティア活動への参加 全生徒1回以上 |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。</li> <li>② 部活動で人間性の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、メリハリのある取り組みを促す。3年生に、アンケートで部活動に対する意識調査を行い、各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に生かす。</li> <li>③ ボランティア推進委員会を中心にポスターの掲示や放送などを通し、全校生徒にボランティア活動への積極的な参加を呼びかける。</li> </ul>   |                             |                      |

( 評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった )

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

|      |  |   |
|------|--|---|
| 重点項目 | その他（情報発信及び家庭との連携）  |   |
| 重点課題 | 適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進  |   |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を図るために、PTA活動への積極的な参加を呼びかけている。PTA総会への参加保護者は、平成28年に総会後の学年懇談会を実施して以来増えており、平成29年度の保護者の参加率は、38%（6年前の2.17倍）、平成30年度は38.5%、令和元年度は34.2%（昨年より4.3%減）であった。進路に関するPTA研修会（第3学年）への保護者の参加率は令和元年度60.7%（一昨年より10.7%減）。</li> <li>学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール」（教育情報メール）の登録を毎年保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」に対する理解は深まり、登録率も増加傾向にある。昨年度は91.7%であった。</li> </ul> |   |
| 達成目標 | ① PTA活動への保護者の参加率の向上<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会への保護者参加率40%以上</li> <li>進路に関するPTA研修会への保護者の参加率80%以上（第3学年）</li> </ul>  | ② 教育情報メール「氷高ほっとメール」の保護者登録率の向上<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>93%以上</li> </ul>  |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に関心が高いと思われる企画や情報を用意することで、総会や研修会・学年懇談会に参加したいという気持ちを持ってもらえるように工夫する。</li> <li>行事の開催案内の配布、ホームページ、メールでの情報配信を行うことで、PTA活動への参加を促す。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>入学前の合格者説明会やPTA総会等の機会をとらえ、「氷高ほっとメール」の利用価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。</li> <li>入学以降は、特に1学期を登録推進期間として引き続き保護者に登録を勧める。</li> <li>全体への一斉メール以外に、試験成績の配布日の告知等、学年や学科に特化した必要な情報も配信することで、利用価値を高める。</li> </ul> |

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった ）